愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	国際開発論		
担当者(Instructors)	神田 浩史	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

私たちの日常生活が、どのように世界の諸事象とつながっているかについて、具体的な事例をもとに考えていきます。そうすることで、飢餓、貧困、感染症、地球環境問題、民主主義、人権といった、世界が直面する課題が私たちと密接につながっていることに気づき、その解決に向けて、自分自身でどのような行動が可能で、効果的なのかについて、考え実践していけるようにしていきます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	受講生主体型の講義を目指して、多様なワークショップを導入します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション（授業の進め方・目標などの共有、自己紹介など）	授業の進め方・目標などの共有、教員・受講生相互の自己紹介	□
第2回	ワークショップ・世界の現状を知る	国際開発の基本となる世界の貧困・格差の現状を知るためのワークショップ	□
第3回	世界につながる私たちの暮らし　モノを通して考える①	具体的なモノを通して、私たちの暮らしがどのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ①	□
第4回	世界につながる私たちの暮らし　モノを通して考える②	具体的なモノを通して、私たちの暮らしがどのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ②	□
第5回	世界につながる私たちの暮らし　モノを通して考える③	具体的なモノを通して、私たちの暮らしがどのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ③	□
第6回	世界につながる私たちの暮らし　モノを通して考える④	具体的なモノを通して、私たちの暮らしがどのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ④	□
第7回	世界につながる私たちの暮らし　カネを通して考える①	私たちのおカネが、どのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ①	□
第8回	世界につながる私たちの暮らし　カネを通して考える②	私たちのおカネが、どのようにして世界の開発問題とつながっているかを学ぶ②	□
第9回	南北問題の歴史＜その１＞	貧困や格差の源をたどる学習①	□
第10回	南北問題の歴史＜その２＞	貧困や格差の源をたどる学習②	□
第11回	南北問題の歴史＜その３＞	貧困や格差の源をたどる学習③	□
第12回	深刻化する環境問題とその現状＜その１＞	環境問題の現状についてワークショップ形式で学ぶ①	□
第13回	深刻化する環境問題とその現状＜その２＞	環境問題の現状についてワークショップ形式で学ぶ②	□
第14回	国際開発の未来を見据えて	SDGｓ（持続可能な開発目標）がなぜ重要なのかについて学ぶ	□
第15回	授業のまとめ	各自がSDGｓアクション・プランに取り組む	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

国際開発について身近に感じるために、一人一人の日常生活とのつながりを意識する講義とするため、講義で得た情報・知識を日常生活の中でフィードバックする機会を設けること（3～4時間程度）を求めます。 また、授業中にフィードバックを報告する機会を設けます。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業中に必ず発言の機会を設け、その場でフィードバックするのに加えて、毎時間終了時のコメント・ペーパーに対しても次の時間に丁寧にフィードバックします。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021国際ビジネスDP3	グローバル化の影響について、国際社会において、多様な様相を呈していることについて理解し、行動できる社会性を身に付けている。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

第1回～第14回まで、毎回、授業終了時にコメント・ペーパーの提出を求めます。それらはすべて平常点として採点対象となります。それらに加えて、最終回（第15回）には、全体の講義を受けての行動計画作成を求めます。これも平常点としての採点対象となります。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	毎回の講義で教員から教材を提示し、講義後、その教材を共有します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	講義の中で提示します。	
2		
3		
4		
5		